

# 新しい学力観に立った進路指導の試み

— 校内高校進学説明会を通して —

足利市立富田中学校 半 田 昇

## 1. はじめに

新しい中学校学習指導要領の全面実施がスタートして5年が経過した。学習指導要領の総則では「自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成と個性を生かす教育の充実」が打ち出された。

進路指導については、生徒が自らの生き方を考え、主体的に進路選択ができるようにすることを目標に「生き方と自己を生かす能力の育成」が新しく強調された。

現在、中学校においては、進路指導計画の見直し、学級活動における進路指導の充実、進路に関する啓発的体験活動の推進、高校進学説明会等を活用した進路学習への支援活動などを通して生き方や自己を生かす能力の育成としての進路指導に積極的に取り組み、工夫、改善を行っているところである。

平成9年度、本校において実施した「校内高校進学説明会」は、生徒、保護者にとっては発展性のある学習の場となり、教師にとっては適切な支援活動の場となったと考えている。

以下、そのあらましについて紹介したい。

## 2. 平成9年度「校内高校進学説明会」の実施計画（研究の実際）

### (1) 目的

- ① 高等学校の概要や選抜方法などについて説明を聞いたり、生徒が不安に思っていることや疑問点について質問させる機会とする。
- ② 高等学校からの説明を聞くことや生徒が自発的に質問することにより、進路について真剣に考えていく機会とする。

### (2) 日時

私立高校 平成9年10月17日(金) 14:45~16:00

県立高校 平成9年10月27日(月) 14:45~16:00

☆両日とも45分授業を実施する。

☆前日、または前々日会場準備をする。

### (3) 場所 本校体育館

### (4) 方法

興味・関心のある高等学校を3校程度選択して、自ら質問をして説明を聞く形態をとる。正しく制服を着用して参加する。

- (5) 参加対象
- ・第3学年進学希望者（3年生全員）
  - ・参加を希望する3年生保護者
  - ・第3学年担当職員

(6) 当日の日程

全体会

司会進行 進路指導主事

- ① 学校長挨拶
- ② 高校進学説明会の趣旨説明（進路指導主事）
- ③ 参加高校名と高校の先生紹介（私立高校8校，県立高校10校）

分科会

- ① 各高校の説明コーナーで10分程度，高校のPRをする。
- ② 自分で選んだ高校の説明コーナーで質問をする。（60分間）
- ③ 訪問を終えたら，各学級ごとに担任の先導で教室にもどる。

(7) 高校からの説明内容

- ① 各高校の概要，校風，入学者選抜方法，入学後の学校生活，卒業生の進路状況，入学を希望する生徒や保護者に望む事柄等の説明
- ② 個別に生徒や保護者からの質問に対して回答

(8) 係分担

- ・実施計画作成（半田）
- ・職員の派遣申請作成，発送（半田）
- ・会場準備（3年職員，生徒）
- ・接待（校長，小野）
- ・生徒指導（3年担任）
- ・会場案内（半田）
- ・駐車場整理（市川）
- ・司会進行（半田）
- ・手土産の準備（教頭）
- ・高校名プレート作成（教頭）

(9) 事前指導・教師の支援

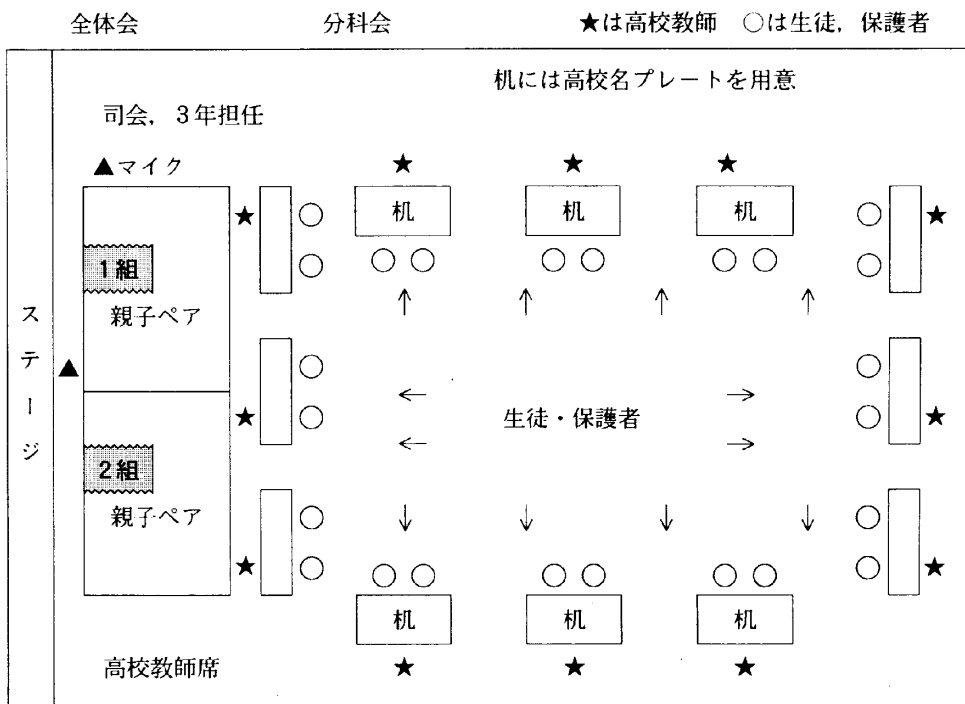
- ① 訪問希望校を3校程度決定させ，自主的な態度で臨めるようにさせる。
- ② 実施目的，内容，日程等を説明し，よく聞き，よく質問する態度を大切にするようにわかりやすく指導する。
- ③ 話が一方通行にならないように，あらかじめ質問事項を考えさせ，質問のしかたを説明しておく。
- ④ 特定な学校に生徒，保護者が集中しすぎないように事前調査をして，訪問する順番を調節しておく。

(10) 事後指導・教師の支援

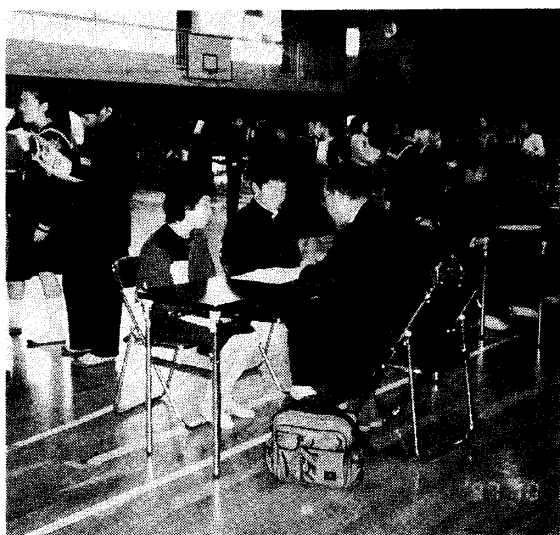
- ① 説明会で質問する態度や説明を聞く態度等が今後の中学校に生かせるように記録（写真）に残し，適時指導できるようにしておく。

- ② 説明会で聞いてわかったことなどが、今後の進路選択に生かされ、適切な進路選択ができるように支援する。

(1) 会 場 図



高 校 進 学 説 明 会 の 一 場 面





## 県立高校進学説明会 個別訪問予定表

平成9年10月27日(月)

訪問順序 → → → → → → → → → → → → → →

高 校 名	1	2	3	4	合 計
〇〇高校	2名	2名	2名		6
〇〇高校	11名	8名	8名	1名	28
〇〇高校	8名	2名	3名		13
〇〇高校	4名	3名	11名		18
〇〇高校	4名	4名	5名		13
〇〇高校	7名	4名	6名		17
〇〇高校	5名	6名	1名		12
〇〇高校	8名	16名	4名		28
〇〇高校	10名	14名	14名	1名	39
〇〇高校	2名	2名	2名		6

☆説明を聞いた後、個別に親子で質問をする。

☆周りの状況によっては、臨機応変に予定外の訪問も認める。

☆この機会を高校入試面接の一場面としてとらえて生徒への指導をする。

# 県立高校進学説明会 アンケート (高校教師用)

足利市立富田中学校

H9.10.27

☆今後の進路指導の参考としたいので、さしつかえなかったら、ご協力をお願いします。(提出は、本日でも、後日でも結構です)

1. 今年度、進学説明会の形式を試みとして生徒、保護者が質問する形式で実施しました。実施した感想をお聞かせください。

2. 「高校側から中学生に伝えたいこと」と「中学生、保護者からの質問内容」の間に大きなずれはありませんか。

- ・かなりあった
- ・少しあった
- ・ほとんどなかった

具体的には、どんなことですか。

3. その他、お気づきの点がありましたら、お書きください。

さしつかえなかったら、高校名を記入してください。

高校名 ( )

# 県立高校進学説明会 アンケート (保護者用)

足利市立富田中学校

H9.10.27

☆今後の進路指導の参考としたいので、さしつかえなかったら、ご協力をお願いします。(本日、お帰りのときに箱の中に入れてください)

今年度、進学説明会の形式を試みとして生徒、保護者が質問する形式で実施しました。

1. 質問内容に対して、満足できる回答が得られましたか。

( )

2. 高校の先生の対応のしかたは、どうでしたか。

( )

3. どんなことが、参考になりましたか。

( )

4. その他、お気づきの点がありましたら、お書きください。

( )

3年 組 保護者 (男・女)

## 校内高校進学説明会 保護者アンケート集計結果

### 1. 保護者として参考になったこと

- ・卒業後の進路状況，入試の現状がわかった。
- ・専門学科は，資格がたくさん取れること。
- ・高校の特色がよくわかった。
- ・高校の授業内容がよくわかった。
- ・受験高の選び方が参考になった。
- ・うわさに聞くことと実際に伺った話しはちがうこと。
- ・部活動の内容がよくわかった。
- ・パンフレットに記載されていない点までよくわかった。
- ・個別質問の時間があったので細かい点まで知ることができてよかった。
- ・専門学科は，技術を身につけることができるメリットがよくわかった。
- ・全体で聞くよりも自分から進んで質問することができてよかった。
- ・これからもこのような機会があったらよい。

### 2. 改善が必要と思われること

- ・全体的な説明時間がもう少しほしい気がする。
- ・他の人の質問内容とそれに対する回答が聞きたい気がする。

## 校内高校進学説明会 高校教師アンケート集計結果

### 1. 実施後の感想等について

- ・たいへん多くの生徒たちが話しを聞きに来てくれて本校の内容を細かく伝えることができました。
- ・生徒と保護者が本当に知りたいことを質問してくるので，たいへんよい方法だと思います。
- ・生徒，保護者が積極的，自発的に取り組んでいる姿勢を強く感じました。
- ・各コースごとの人数調整がよくできていてよかったと思います。
- ・講義形式ではできない「対話」ができてたいへんよかったと思います。
- ・生徒，保護者（特に生徒）の率直な質問を聞くことができてよかったと思います。
- ・個別質問という形式から父母，生徒と親近感をもって対処することができました。
- ・生徒が自分の進路について主体的に考えると同時に，親子で相談する態勢づくりに役立つと思いました。
- ・大規模校の場合難しい面があるが，富田中程度の規模ならではのよい方法だと思いました。  
(高校側と生徒，保護者側の伝えたいことのずれはほとんどなかったようです)

### 2. 改善が必要と思われること

- ・最初は慣れないせいか，質問が出にくかったようです。
- ・同一内容の質問に対しては，事前にとりまとめておくと時間の短縮につながるかもしれません。

# 中学生の高校進学 自主性狙い説明会

## 足利、生徒が担当者に質問

中学生が進路を選択し始める時期を迎え、足利市駒場町の富田中(長竹勇校長、生徒数百九十八人)で二十七日、珍しい高校進学説明会が開かれた。各高校の担当者が一方的に自校をPRするのではなく、生徒たちが志望校の担当者から直接説明を聞く、会社説明会方

式。「知りたいことを直接質問できてよかった」と生徒たちに好評だ。この日同校の体育館で開かれた説明会には、足利市内のほか佐野市と田沼町の県立高計十校が参加。各高校の担当者が机を並べた館内で、生徒と保護者が次々と希望する高校を回り、個々に説明を受けた。来春受験を目指す同校三年

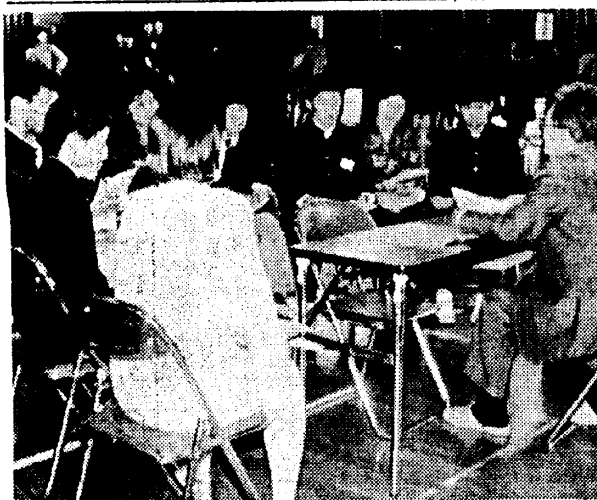
年の阿部孝君(四)は「一般入試で面接があるのかどうか知れたかった。直接、質問できるのでこの方法はよかったと思う」と評価。新方式の説明会を通じ、発案者の同校進路指導主事



の半田昇教諭は「子供たちが知りたいのは入試の方法や学科の内容、部活動などなのに、高校側は大学進学率などをPRしたい。双方のズレが分かったことは今後の参考になる」と話して

いた。

この方法の導入を決めた長竹校長は「自発的に高校を選ぶということで生徒の主体性が育つと思う。高校への不本意入学による中途退学を減らす一助になれば」と期待を込めている。足利市教委学校教育課の上村和章指導主事は「珍しい方法だ。説明会が一方通行でないところがいい。まだ目に見えないデメリットがあるかもしれないが、試みとしてはいいのではないかと話している。」



高校の担当教師を囲んで説明を聞く生徒と保護者たち市駒場町、富田中体育館＝27日午後3時15分、足利



### 3. ま と め

校内高校進学説明会は、各中学校において毎年実施されてきた行事であった。しかし、県教育委員会や高校側が主催する「一日体験学習」「高校見学会」等が盛んに行われるようになってきたことにより、近年、校内高校進学説明会は削減するような方向にきていた。

県教育委員会の統計調査によると、高校生の中途退学者の数はいまだに多い現状にあることを知り、中学校として、中途退学に歯止めをかける方法はないものかと考えてみた。

そのための対策はいろいろ考えられるが、学級活動における「進路学習」の充実はもちろんのこと、進路に対する生徒と保護者の意識の高揚が大切だと考え、従来の「講義形式」の説明会を改めて、「生徒、保護者主体の対話形式」の説明会に変えてみた。

試み的に実施することもあったので、実施してみないとわからない点や運営上の不安も少しあったが、結果的には生徒や保護者は新鮮さを感じてなごやかな雰囲気の中で実施できた。

#### (1) 実施して良かった点

ア. 生徒は一日体験学習後の発展学習として主体的に参加することができた。

イ. 対話形式にしたので、事前に質問事項を考えたり、質問する態度等について生徒ひとりひとりが真剣に考えることができた。

ウ. 進路選択をしなくてはならない時期にさしかかり、今後の進路選択の参考になった。

エ. この機会をこれから自分が直面するかもしれない高校入試面接の一場面としてとらえて参加できた生徒もいた。

オ. 小規模校ならではの方法かもしれないが、高校の先生と直接、懇談できて良かった。

#### (2) 今後の課題

ア. 質問が出にくい生徒たちには、意図的に支援活動が必要と思われる。

イ. 授業をカットしないで、創意の時間を利用しているので、時間的にややきびしい面もある。

## 評

進路指導では、人間としての生き方についての自覚を深めるなかで、将来の職業的自己実現を図るのに必要な能力と態度を育てることが求められています。

したがって、生徒の発達段階に即して、進路に関する意欲や態度を育てるとともに、目的意識をもって生活することにより、自分をより向上させ、進路について主体的に選択・決定できるよう計画的に指導することが重要となってきます。

この趣旨を踏まえて、富田中学校では、生徒が自らの意志で、進路を選択できるような場として「校内高校進学説明会」を計画し、実践されています。

富田中学校で実施された「校内高校進学説明会」の特徴は、高等学校からの一方向的な説明に終わることなく、生徒が自分が希望する高校を選択し、自ら高校生活への疑問を問い、高校への理解を深める対話形式の進学説明会になっていることです。

本実践を具体的に見ていきますと、まず、生徒の高校に対する様々な質問を丁寧に捉えるところから出発し、次に生徒と保護者が納得のいく進路選択ができるような方法を考え、さらに高等学校と密に連携をとりながら、一日体験学習の発展学習としての計画を策定し、実践へと取り組まれています。また、事前、事後指導での教師の支援は、生徒の自主的な進路選択への意欲を高める視点からきめ細やかに行われています。

過日文科省より高校の中途退学者数が過去最高となったという報告がなされました。退学の理由は「進路変更」がほぼ半数を占め、この生徒たちが中学校の進路指導に望むことは「高校の特色、生活や勉強がどんなものか知りたい」ということでした。

富田中学校では、この現状も視野に入れながら「進路学習」の充実と進路に対する生徒と保護者の意識の高揚が重要と考え、そのための手だてとして「生徒、保護者主体の対話形式」の説明会を実践されましたが、この方法は、今後の高校説明会の改善に向けての新しい方向を示すものであると考えます。この実践に見られるように、生徒や保護者と進路について語り合う中から、本当に知りたい情報をつかみ、生徒の望ましい進路選択へ向けて、進路指導主事を中心とした支援態勢づくりをしていることは、各学校においても参考になるものと考えます。